

研究・調査報告書

報告書番号	担当
388	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Alcohol consumption and risk of pancreatic cancer in the Netherlands cohort study. アルコール飲酒量と膵臓癌リスク Netherlands cohort study より	
執筆者	
Heinen MM, Verhage BA, Ambergen TA, Goldbohm RA, van den Brandt PA.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Am J Epidemiol. 2009 May 15;169(10):1233-42. Epub 2009 Mar 24.	
キーワード	
飲酒 アルコール飲料 コホート研究 エタノール 膵臓癌 ビール ワイン	
要 旨	
目的： アルコール飲酒量と膵臓癌のリスクについて前向きに検討する	
方法： Netherland Cohort Study の 1986 年のベースライン調査時の質問票に回答した 120,852 人を対象として、エタノール換算の飲酒量により非飲酒、10g/day 未満、10~30g/day、30g/day 以上の四群に分類し、Cox 比例ハザードモデルにて、アルコール飲酒量と膵臓癌のリスクについて検討を行った。	
結果： 追跡期間は 13.3 年間。追跡期間中に 350 症例の膵臓癌を確認した。その 67%は病理学的にも膵臓癌と診断された。また、飲酒しない人を対照とすると、エタノール換算で 30g/day 以上飲酒する人は膵臓癌の正の関連を認めた。全膵臓癌症例のリスクは 1.57 倍 (95%信頼区間：1.03-2.39) であり、病理学的にも膵臓癌と診断される症例のリスクは 1.54 倍 (95%信頼区間：0.94-2.54) であった。同様に、ベースライン調査時において 5 年以上飲酒習慣のある人も、膵臓癌と正の関連を認めた。習慣飲酒による膵臓癌リスクの上昇は追跡開始 7 年目までに限定されていた。アルコール飲料の種類による膵臓癌リスクの差異は認めなかった。また、飲酒による膵臓癌リスクの上昇は、葉酸摂取や喫煙を調整しても変化しなかった。	
結論： これらの結果から、エタノール換算で 30g/day 以上飲酒する人は、膵臓癌のリスクが上昇することが示唆された。しかし、このような飲酒による膵臓癌リスクの上昇は追跡 7 年目までしか観察されなかった。	